

夢想兵衛胡蝶物語後編

貳

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之二

東都

曲亭馬琴戲編

煩惱

隨緣隨喜の乾辛堂法座の母より同近くもて今説起すと聽聞せよ。
 夫煩惱と云ふ智度論云そのむら煩惱ありひげやひの衣よ名と云。
 婦は属す。瞋小属り。癡小属る。是は煩惱その数八万四千あり。痛しは非
 一切衆生ハ八万四千の塵勞煩惱遂は苦海小沈して八井戸へ墮世簪厨振
 あがらんとまれば浮む瀬は世をこれと稱して。その煩惱の根は世に
 とく。八万四千の法門を改て相伏対治あり。若れども三千世界一度六千が
 ずりのありて煩惱御と漏されり。この煩惱の根と對する般若波羅密
 小ちくハなり。その衣のふと尋ふ。小煩惱ハ入慈の四病より起る。



夢見の奇縁編卷之二

貪病とて貪。ゆゑは煩悩あり。その才二の瞋病とて腹のすちう煩悩
あり。才三の癡病とておのの愚癡ゆゑ煩悩あり。第四の三毒病惡の
とものたる煩悩あり。般若有波羅密湯とてその四病を除くべし。般若波
羅密湯太といふ人。聖女の身うち不具津女が孕すとてつて正で六。波羅
密との梵語とて。翻譯すれば到彼岸。され彼岸の美あり。一切衆生ハ
の産まふに任はすむら波考とて。煩悩ハ中流とて。到るといふよ又六あり。
第一と檀といふ檀はとれつら施あり。第二と毗黎といふ毗黎ハ即持
戒あり。よく五戒と持といふ第三ハ舞提あり。舞提ハ忍辱あり。万のよ
堪忍とて承り第四ハ尸羅といふ尸羅ハ守るの精進あり。第五ハ
禪といふ禪ハ守るの定あり。第六と般若といふ般若ハ守るの智慧の
つり。被五者といふ五戒と持とて。般若といひて導は俱は有相の深きを絶と。
有相の彼者へ拜あり。ゆゑは波羅密と説く人。彼者といふ悟道の
の有相とて。歩む有相は走り。其かへ到るハ仏とある。佛はまを心
をもぢ。それをもけは煩悩は煩悩にけまハ菩提なり。菩提はむけれ
ハ佛なる。つまり知の一字。この悟道の極所なり。是ハよそを
愛恋兵衛ハ食言御あり。爺二郎が野鉄施よりちひけれ。世に
通るハ道にても。ひろくは世にのうひる。このとて立退る。煩悩
御へ厭へてさる。居るハ隨よる地の風景人物の賢不肖を悉く
歴覽する不定晦日村といふ一邑へこのの。後へ申前へ申あり。この物前
巷路の兩側ハこの頭がすむらふ。比痛痺巻たふは女夫井境
ののろこの去。去。巖の難あり。手止格の夫婦墳あり。その原へそめく
秋風とて。子共道津のらとて。親の正え。原へ出。檀那の

物と打と巨谷のつと知つぬの一騎くらちどつりあやらら改歳黄浦
 布子へうけつ繩子道口舌形田さく長く鬱言八百愚癡千坪家
 いらう谷糠子の生崎人の出入りいと繁く俣田稻荷祭の赤の版より冷
 版あつて鼓さ出される馬鹿太鼓身上仕奉せんとつりま曜子
 てんてこ舞ここゝの恒例あつて年中毎日の大混雜はさながら大
 晦日み異あらぶと只ありはの煩悩さえねば由所大数なりむなく敗軍
 俄頃下降て漏れさる。夫婦辟易搜獵まりの僅み縁と索てハ高利
 業知で借多し。質種さる後々件改とすけどさうぬ再切是帶その利
 と非あむ枉うねて背門へひびひ買ふ。能ふ世からる。餓鬼骨の障
 子の踏ぬ古席薦地獄おとしあ供あつ。釜とこけて獨とうけあられ
 小僧所持はびの大鼓も機のあるさうら。ひりの榮耀は極次の皮を

ひつ世子共木が牙の皮剥バ鳴手寒い。さむいくと泣子より泣くと
 又齒齧締り養むか水汲千ウとの炭團一ツの玉の床さるふらた
 牙の通り。こまを名つけて動きの煩悩といはるべ。さ取方乃
 煩悩ハ一刻足すとの利をえんとす。二物まを貸過。三日二階一團整て
 算盤とらう書出の五十足すとの買かりも。巻紙半枚費してつう
 と配る蚤取眼耐を考り張の挑丁捲て箭の玉くまうもそれと
 彼首ハ化粧。さうでひひ飲さおちたハ又妙まつて茶さる世玉横平
 らく二三度もあうせて扱守拂ひ。こまの同屋が塞りおとす。筒
 ど。口説ども。ロクどまうせむこれ目も。こまの内ぶど物さあ。金
 沙汰よまてののの。ぬつら。亭主よ。さうのつとれ。愛想あり。障子
 たるうせんう。又来る物支書おへ何十枚何貫文の何月前のえさ

漢語六書集解卷二

と志してえせく由勅定よ入且とそれあり月かけど今度のう
と拂ひまじとらつとも如方へけきともふいふかざるぬとりのち
らふ不理屈ハ利多とらふ當分の足撥不足ぬ難免でもありといふ
あひも由出されど貸し損する牙の破滅ぬまは同屋の居催促かう一口
由片つねに聖から荷が送ふまぬ愛おつじのるいやう小松按さや
まどとら行は痛入る三年の舊痕どくりのまじりくへい馴深
甲斐由あり。鏑と削る歌味方人間萬事掌をひさやうるしぬ肩債の
財三日積と戸の常闇ハ岩戸神樂もとる師の祭りのだ茶飯で出と
三里先うら伯父叔母ハ足弱連まき膝とも合五回正面と四縮め二
間の孫店外聞と買入うらぬ賣居と書う土庫の腰巻も落月と憐
ひ人のねハ借て貸し煩悩あり抑み定晦日村子物さひの絶るるハ

奸隠して悠深く人の懐を宛あて牙上の機関と弄び一束摺りの大
利を好きて至極浮雲と世とらふの綱と真直ありぬものうとひま
傍ひといふあり。年中絶とせなれぬ飲食も奢らむと流氷花山
おも出せ世間を飾らむと綺羅を張らぬその公は殊ふいやく止足の
二字とあふれば物もぐく足らぬあり。足らざる本は煩悩一二年の
計ハ元月から廿二日間のあひ。老後の計ハ各題いと死はあれどそれと
迂遠のとして明日取の残とけみから遣へ取らざる残ハゆめとれどあぬ
借残とてそのけ圓の習俗とてと張契か宛飲といふ聖とる浅と
夏の日の青天よりおとがらう。風がかりは宛なまはげいさふてい
と死いその足らざると志してあり。足らざると志して足らざるは苦むら
と死らぬ迷ひも夫年は豊凶あり人は幸不幸あり。盛るりのハ衰へ



又...
...

...

...

...

...

...

...

盈々と死に虧く。三里の城。七里の郷。こまごめつと攻まると由務に彼四
 方より敵をよけてる。海傍に城。海傍りの兵卒のこまごめと兵糧を
 からねば。さうさうの土の風俗の家内のさうさうに停るの軍配
 由死さうねば。又子夫婦は好嫌ひよく。早飯の三度より。て冬餐を
 二度食ふりの由あり。活業は解りて。碁将棋をいふ。身を入りの由
 あり。着々として。神ありて。西より雪の日より出で。家は三日の貯。緑
 るけは。疾病といふ。大敵よ。あらは。十日首を擡ひねば。妻子を
 隠と釣あげら。諸城とれども。援兵を。子と賣妻と。賣りのあり。
 あら。と。牙の懈。あたら。ゆ。由。あら。と。大都。余。よ。住。り。て。縣。ぬ。の間。あ。平
 の。と。の。牙。撈。ひ。の。迷。懷。と。さ。ら。有。理。と。さ。ら。ゆ。ゆ。多。よ。泰。平。の。と。死。は。生。ま。し。て
 あ。ひ。さ。さ。牙。の。存。の。努。力。ゆ。ゆ。と。竟。舞。の。民。と。あり。て。禁。封。の。暴。虐。よ。達。さ。す。

人進ぐれども家と失ひ。不承ある。ぬ妻と捨。不孝なる。ぬ子と賣。ること。
 人間の恥辱。さめや。あ。か。は。煩。悩。ハ。外。より。あ。り。の。よ。あ。ら。ん。ぬ。五。迷。
 愚癡。さ。智。の。火。氣。よ。蒸。と。て。ど。と。と。生。く。狗。腸。の。頭。之。貧。富。ハ。天。乃。
 配。刺。ふ。あり。仁。者。ハ。富。び。富。バ。仁。あら。ん。と。止。足。の。二。字。を。あ。り。の。ハ。貧。く。し。て
 煩。悩。有。り。利。と。温。りの。ハ。危。さ。居。の。の。本。よ。煩。悩。多。し。譬。バ。店。よ。百。金。の。貸
 物。あり。て。代。小。百。金。の。費。あり。も。その。貨。物。の。か。り。の。ら。ら。む。と。さ。ら。ハ。ミ。ん。が。是
 問。屋。の。負。債。多。す。百。金。の。古。借。あり。百。金。の。買。と。り。て。二。百。金。の。負。債。を。し
 遣。り。保。る。人。の。號。鼻。禪。こ。ら。相。撲。も。一。番。足。分。流。ま。り。と。輾。ど。つ。つ。七。犯。か。し。
 九層の臺。由。土。より。こ。と。と。花。彈。の。甚。入。郎。か。組。立。さ。す。七。重。九。重。の。塔。堂。の。由。
 地。形。と。く。せ。ね。ハ。傾。を。易。く。百。飯。の。松。由。下。小。傷。ま。り。と。その。未。上。は。橋。の。由。
 向。上。ハ。松。樹。の。根。が。傷。ま。り。上。から。橋。も。堅。固。ハ。身。上。と。い。ふ。りの。ハ。九。重。

の塔の地形をよじ。百奴の松の根を張る。く。く。かかみ。未残ら。祖立て。も。
ま。く。懸んとく。手を廣げ。向屋。ハ。視。限。ハ。沽。市。一。七。恰。好。り。の。て。か。け。ま。
ハ。受。む。利。を。落。じて。棟。擇。を。厚。し。物。を。廉。く。賣。る。ゆ。え。ハ。世。に。了。る。の。煩。惱。
は。か。か。り。ま。ま。一。理。よ。く。は。か。の。國。の。習。俗。を。は。た。す。る。合。せ。の。い。は。じ。て。
一。月。あ。ま。り。花。す。ふ。常。侍。羅。と。飾。と。多。ハ。脂。除。る。布。子。み。か。り。僅。の。間。
惣。よ。い。れ。衣。を。被。と。も。多。ハ。鹿。服。一。と。は。目。ま。さ。ら。ハ。入。間。一。生。衣。食。住。を。
一。所。由。缺。と。ぬ。り。の。ぬ。れ。ば。一。生。ハ。一。程。の。家。み。居。れ。一。程。の。食。を。
と。す。一。程。の。衣。裳。ハ。被。と。る。と。い。へ。ん。也。が。二。等。も。三。等。も。引。さ。げ。ま。
と。よ。暮。せ。六。夜。食。住。ハ。煩。惱。ハ。る。た。ハ。人。間。づ。づ。五。十。年。の。勘。定。を。廉。畧。み。て。
す。ら。し。と。ぬ。す。の。横。車。撒。へ。さ。る。女。房。の。言。茶。賃。と。る。夫。婦。喧。嘩。数。も。豆。下。
ぬ。女。子。は。教。も。は。播。種。と。わ。ら。さ。さ。て。近。年。の。味。糴。と。つ。け。播。盆。棚。より。跳。下。出。

志。亭。主。の。面。と。摺。ひ。く。る。血。で。血。と。洗。へ。ぬ。龜。の。糞。糞。よ。あ。ら。ん。圍。裡。乃。
狐。を。明。く。地。へ。出。さ。し。音。む。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。火。火。あ。ら。ん。ど。煩。惱。狂。丹。餅。ひ。と。ろ。ろ。
瓶。と。近。所。合。登。は。面。目。と。失。へ。ど。も。羞。と。羞。と。あ。ら。ん。後。ハ。狐。ハ。外。は。く。は。す。
ろ。ろ。ろ。ろ。現。箱。の。埃。と。と。ひ。て。代。茶。か。ら。三。つ。は。荒。神。さ。る。ハ。魔。あ。ら。
と。ろ。ろ。す。ま。の。中。央。よ。主。在。り。ハ。親。分。媒。均。立。あ。り。て。と。ろ。ろ。と。ろ。と。ろ。と。て。あ。げ。
吹。の。目。ハ。狐。の。た。る。ま。と。ろ。ろ。ア。ら。ん。鼻。滴。咽。へ。て。居。て。も。は。ま。ら。ん。俄。頃。ハ。
木。角。由。口。寂。しく。小。甘。合。酒。の。賣。を。持。へ。縁。の。下。へ。ハ。じ。と。年。れ。て。敗。草。鞋。と。
り。ハ。不。算。本。を。執。湯。あ。ら。の。號。鼻。禪。ハ。坐。は。乾。あ。ら。て。半。拭。と。肩。と。比。べ。
と。ろ。物。多。ハ。澤。の。螢。も。コ。を。牙。と。り。あ。く。れ。物。玉。の。汗。五。月。雨。か。ら。の。煙。粉。
打。と。り。火。の。う。ら。ら。む。と。怒。と。ろ。ろ。正。瞋。恚。の。火。炎。意。の。弱。ハ。絆。と。
放。さ。し。て。東。西。南。北。ま。ま。り。繞。り。公。の。猿。ハ。罵。を。放。し。て。縦。横。と。尋。は。ね。ハ。世。

煩惱御こそ残りけまこと。爰に兵衛ハを後くと。入る毎に洗うけりも。フカ
 屈花よりぬぬ。想思草の烟つち舟なる。鼻の先で中あつらつて耳ふち
 かけぬ大混乱可情口は同じく。十五六町杉屋は宇陀洲といふ濱あり。
 美坂といふ坂あり。望遠洲に住む人の徳由がく才ありて人の改まら
 ざり。我ハ隣の家と敷へく。寓るはぬ隨ふさまぐる。妄想胸は浮き出
 たらえす。世の金と懸て。世の耳目と奪せんともく。死ハ忽ち十千万両の
 金りちよなくん。西施でも小町でも。面を掩上端婦を。数千人左右よ
 果し。脂ごころ肉鼻よ。この冬の寒さ凍忘まんともく。ハ。右硝子を
 逆さまよ。つせいで死美人あつたら。我ハ一團一城の主よ。つて。後羅錦
 律と稱し。昔いりの食飽せんともく。ハ。一團一城の主よ。つて。後羅錦
 武藝宇宙は飲多く。彼百車の壽命とたりらて生るら。計よるとん

とどハ。かくて計もも。仏もむらら。と宇陀洲の煩惱といふ。凡勝はて
 見。後。く。ぞ。く。と。つて。手。と。絶。也。十。兩。の。牙。上。八。百。兩。よ。ま。ん。の。手。あ。ん。
 百兩の牙上ハ。十兩よまん手あり。男子をく。奉る家あり。女子不。け。の
 守あり。世帯の。の。め。か。ひ。ぐ。の。女。房。と。り。つ。と。死。ハ。ゆ。と。と。美。一。く
 ち。く。え。ん。手。あり。病で挿。亭主と。り。て。ハ。の。と。と。優。一。く
 ち。て。り。と。ひ。え。手。あり。班文の筆一本。出。本。且。ハ。三。歩。の。掃。又。手。あり。猪
 猪。箱。の。桂。分。出。身。ま。ハ。額。等。垢。の。下。襲。又。手。あり。桃。張。の。煙。管。分。出。身。ハ。
 鼻紙袋。小。手。あり。母屋の。高。智。智。術。出。身。ま。ハ。土。庫。の。根。接。又。手。あり。宗
 音の。閑。帳。へ。日。子。と。れ。ハ。洞。燈。鈴。と。寄。進。く。の。手。あり。波。皮。刺。の。女。児。と
 り。て。ハ。男。姑。小。男。あり。律。毛。で。金。り。ら。で。女。房。と。可。愛。か。舞。よ。の。ハ。せ。ん
 手。あり。生。ら。る。の。ほ。く。息。子。と。り。て。ハ。支。度。ハ。勿。論。持。系。ま。つ。へ。り。標。致。ゆ。く

て両親の極嫌とする婦とて予授ふとて予とて。老弱男女かのどい
のそと絶ざるな煩悩妻し。下男下女を使ふりの二季の出らりも煩
行燈と燈心のまい少い電の下の新火持の炭世草をさぞ小細と述むて
かむくつ一年と六尾が居て出せ損あり出まば不自由送うけ
主人の煩悩只情慾のまらうのそと朝夕念仏を唱る口からられも腹
くまら人も又腹をせる長法養こそと火宅と悟ぬるも老ても火宅を
脱とゆむむ唐山の牛哀の生るから虎となりてその兄を啖ひかこの
國の人ハ生るが煩悩の犬となりて先非と後よりあつ羨坂の人物中
早絶洲又似くひて聊も見識る。見る物毎こそと羨と人の子のよひ
衣裳被ととくくハこの女見あものどく。被訪らせよとのいふ羨と
下女ハ令弱が荷下りとも。芝居記よくと羨と丁稚ハ隠居の昏森と

羨と小斬の主官の病牙と羨と老人の頑死と羨と頼人の徹癪と羨と
浮気る女見の抱女と羨と浮気る息子の幫間と羨と和尚の医者をも
羨と下戸ハ上戸と羨と井戸堀と屋根普と羨とまくと焼めらるる
とら隣の獨身と羨と亭主の懲官とくすれの子とらぬ嫁婦を
羨と日照の傘張ハ雪踏屋と羨と冬の豆腐屋ハ炭焼と羨とりのと
拾んととらぬの縁組と羨と物を扱んととらぬハ長人を羨と西瓜を
食ふとらぬ反齒と羨と遠眼鏡ととらぬ偏目と羨と確碯とと。跛子
と羨と雷の鳴とらぬ襲と羨と齒と取るとらぬ鼻齋と羨と電のまら
とと盲人と羨とむきか情慾の甚くところ。とらぬと禁りゆむ
羨とまけまの煩悩も又妻し。法師となり羨しからぬりののめり
本のむらゆの折のすもろとらぬ。兼好が述懐る。現ふも羨りぬる

それと志のあついで一言を惜みと志を弱く後と信と云ふは
夫婦あやとお海くと男の七十のまうふと女は六十有餘るがうと志
ある布子の襟小肥て運つた風と改せ膝の敷と漏る綿も言ひつゝ
風情ふてねよひつた骨立を細糸巾の杖二重の腰小一重帯ふらめく
足りとのぶると互に扶け助らま何ぞうつくひるから浪打陸歩
よりゆりとも小石を拾ひて靴袂へ入まふか憂お共海とせえん
けらぬのひるふはなき情もあつた牙と投るふふもあつた年表て娘の子も
るく飢情は運り先夫婦捨身とも疑ひり隣はりともひもあ
ど背より遠くふらが腰を引とめ幸かあつらふらとも小捨身と人
と見ええん日平國とええと果するは長旅とる憂お共海との
ゆめと志もかくもてふらが玉の飾りかきとめつたゆめと志も
と明白と志しぬつとくと信ふも同とく果る者夫婦とつとる頼と
うら腫子丹日本人は何もあつたゆめと志のぞり近曾の霖雨と世
門口ぬるまも砂砾と布ふた残はる一本捨ひふととくし如く毎日
まのふら二十の小石を拾ひてりくゆり背門足踏はる愚か山とつせ
どく微塵積りていつとる雨の降日由下駄いよば出とるうよ自在
は隣家の羅扇櫛賣婆とる我をわて羨むの味ハ一食まあて
布のせり小石を筆王の毛と切る人へ沽とる人とる隨と老て大義
み木と捨へど婆くと加勢みけの中亦石と捨ひよまこの身を
投つるまもと不身益千万大さか世活朝と生まとく夕と死ぬると
又塚壘で命と惜むりのと年老て貧しとる浮世は伴て身を投へ
る世間と人種とる生あるりのたひありさひのまは煩惱あり梅

それと志のあついで一言を惜みと志を弱く後と信と云ふは
夫婦あやとお海くと男の七十のまうふと女は六十有餘るがうと志
ある布子の襟小肥て運つた風と改せ膝の敷と漏る綿も言ひつゝ
風情ふてねよひつた骨立を細糸巾の杖二重の腰小一重帯ふらめく
足りとのぶると互に扶け助らま何ぞうつくひるから浪打陸歩
よりゆりとも小石を拾ひて靴袂へ入まふか憂お共海とせえん
けらぬのひるふはなき情もあつた牙と投るふふもあつた年表て娘の子も
るく飢情は運り先夫婦捨身とも疑ひり隣はりともひもあ
ど背より遠くふらが腰を引とめ幸かあつらふらとも小捨身と人
と見ええん日平國とええと果するは長旅とる憂お共海との
ゆめと志もかくもてふらが玉の飾りかきとめつたゆめと志も
と明白と志しぬつとくと信ふも同とく果る者夫婦とつとる頼と
うら腫子丹日本人は何もあつたゆめと志のぞり近曾の霖雨と世
門口ぬるまも砂砾と布ふた残はる一本捨ひふととくし如く毎日
まのふら二十の小石を拾ひてりくゆり背門足踏はる愚か山とつせ
どく微塵積りていつとる雨の降日由下駄いよば出とるうよ自在
は隣家の羅扇櫛賣婆とる我をわて羨むの味ハ一食まあて
布のせり小石を筆王の毛と切る人へ沽とる人とる隨と老て大義
み木と捨へど婆くと加勢みけの中亦石と捨ひよまこの身を
投つるまもと不身益千万大さか世活朝と生まとく夕と死ぬると
又塚壘で命と惜むりのと年老て貧しとる浮世は伴て身を投へ
る世間と人種とる生あるりのたひありさひのまは煩惱あり梅

鶯 柳は蒸るをく口の縁。さまく後のよのふらと酔やそふ

つもの。鶯 半と鼻の先へ銜出されはまのうと先とつ人の多煩悩の

花恋入抜杜麻萩又睡の野縞のふぶとるりて野馬が大きな尻に

驚きよとん搦夫の鉄炮の遠音にへるつと。嗟夫あがるやと耳を

側花のふり入春の塔へ夜味の網子用心草よ聚く秋の虫ハ終へ

入まると青とを先。身よをらへ赤蛙の尻の脛と腹中。痔のそふ

るじと念下買か入をぬ。尸の奪ふ道中と夏めれば飲ひ

あ。飲ひあまば憂あり。飲ぬ酒あ研は研は研を解るとたむるた

衆生を悟ん。仏の説法もあつて甲斐有り。我一彼若か迷あつて怒悟

も大なる乳岳喃婆とふ下あまるとつバ点以泰それ。盜竊

ちの子と放りと。後のみとして合調入た。そのとをの樹をさも放りて

後の飲ひよひ忘らぐも人情嫁ゆりま。姑もむらの嫁うら辛筋

まをゆ。ふのびり教よるれりのと懲言つみの煩悩をやついの世

岸とまぬ入達磨えんが。お祖師さら。悟入よ牙帯を頓てん

わくのりあ。和尚の檀方勤ハせぬとみで花こととる換枚不。婆

女團冷笑ひ。夫替ハ蛇ハ怖且と。聾ハ雷ハ怒らむ。鼻寝ハ病ハあ

りの。伽羅とらると。烟に情熱は還るの仁義と徹てはとと

今半の愚公か山とらとせとら。のをの紅とやあふ。老て本を捨入

眼まのあじとりのせもあぞ眼を睡。疎る上とつ人うを執。老

後の針とらるん。それむけの述懐町ふて堂樟惱助と唱。鳥

初巻 八景 御所

ひさしあはれ
そとひと

人あはれ
まの月のあはれ
あて今のゆき

ちうらげつ
けんあつ
あまのそと



初巻 八景 御所

哀馬心猿拴
不徒
愚人獨坐放
情忙

ひ馬のり
第七第八
の同ゆええ
こり



とて玉のたれ 蘇志共備傳卷二

とせりるところ 可笑しく 蘇志共備傳卷二

楚國より 蘇志共備傳卷二

洗とて 蘇志共備傳卷二

バ莫耶が 蘇志共備傳卷二

と報く 蘇志共備傳卷二

ハ何れ 蘇志共備傳卷二

不孝不義 蘇志共備傳卷二

又子 蘇志共備傳卷二

とて 蘇志共備傳卷二

之宿 蘇志共備傳卷二

ことと 蘇志共備傳卷二

目ハ 蘇志共備傳卷二

さる 蘇志共備傳卷二

亦て 蘇志共備傳卷二

とこれ 蘇志共備傳卷二

賜と 蘇志共備傳卷二

るの 蘇志共備傳卷二

の悪 蘇志共備傳卷二

なよ 蘇志共備傳卷二

なよ 蘇志共備傳卷二

るの。かる徒と救入と救つぬふちをこの。の道理と曉りぬ良人は暇
 なく密夫と奔り。或る主の女兒を竊取して糸を埋るを列入して主は
 追ふ。良人小逼り。おの強侠ふちして埋るく糸を夫婦とて。こ
 るれ吾根とらうとぢの。前より不孝残忍の徒を助るふとまある。り
 のその思義とあるとあふ。罅隙を鑽牆を踰夫を捨子を捨る。未
 覚つらうの死人とのまじり。色情の賢不肖よよとべとも。文君か相如よ
 毒り。政子が武衛小奔る。妖りて世の奸夫淫婦ハ論が。かじらぬや
 むん身が女兒よ赤井の抱養とらう。て金銭を費し。淫を賣せんとて身
 の利を謀。ハその子に淫毒を教つらう。とて。り。艶曲野声ハ不孝不孝
 の媒妁とらう。親を頼り入。て密夫と昔まきとて。度申引戻。罪を
 論く。とを賣り。ハ。論并と。か。彼て。是の子と。陪せ。加。以。身價の。妻

少と論。十六年の養育代と稱する。仁に至る。不慈の至る。人倫の上
 あり論。之より。あ。その子の淫乱不孝。あ。うら。數く。へ。さ。る。れ。とも。教ふ
 こと。ふ。は。六。棄。る。の外。は。こ。を。棄。て。顧。る。も。又。取。の。慈。悲。る。ふ。子。の。不。孝。子
 淫毒を幸よこれと賣て利をたらふその子の不孝と親の不慈と天祥よかけく
 足よ。と。て。怪。重。の。あ。ふ。い。ま。の。聖。王。の。民。の。罪。と。り。て。こ。を。己。不。徳。徳。を。脩。め
 の。人。か。あ。ふ。ふ。刑。罰。年。と。不。寛。る。れ。とも。その。國。治。り。て。思。民。の。後。の。亂。王。の。あ。ふ。ふ。
 身。の。恨。とも。民。不。徳。く。犯。練。る。りの。を。報。刑。罰。を。重。と。れ。とも。日。月。は。賊。民
 起。つ。て。その。國。亡。び。さ。の。ひ。且。君子。恨。て。不。直。を。改。め。小人。恨。て。不。直。を。作。る。君
 子。の。子。を。遠。つ。る。河。を。下。勢。ひ。仍。ま。ざ。れ。ん。と。教。と。師。の。嚴。う。ら。さ。る。ハ。こ。れ。その。子
 と。捨。る。こ。が。る。ま。は。理。義。よ。明。る。る。りの。ハ。う。罪。を。お。も。い。不。徳。の。その。家。の。理。義
 ざる。ハ。主。の。不。徳。る。り。その。子。の。不。肖。る。り。又。の。不。徳。る。り。人の。賢。不。肖。ハ。天。性。よ

血とら。あつれともいふ(の)夫人君子その子も悪るるはあまど。不孝の子。第
 るれとめて教ふるごとくふ。幼年束侠氣をりて人の不孝不義を助
 けん子の不孝を殊更責めて情も賣るる。つとて。汗と痛とを醫治
 せむ。や。罪あるのハ化の罪と告ぐ。畏あるのハ化の恨と告ぐ。所
 在。あまど。身。の。臭。悪。い。つ。く。臭。カ。猛。く。勢。ひ。別。る。る。力。の。人。を
 罰。勢。ひ。お。それ。さ。る。力。の。あ。ま。だ。あ。ま。だ。一旦。勢。ひ。場。力。究。る。た。死。の。亦。三
 と。怖。る。力。の。は。虎。狼。の。い。と。猛。も。飢。て。勢。ひ。究。る。た。死。の。痛。夫。は。生。拘。り。る。
 既。よ。その。四。足。を。縛。り。れ。その。力。を。缺。る。た。死。と。人。群。ま。て。こ。ま。を。え。る。東
 方。朔。か。言。よ。こ。ま。を。用。る。た。死。の。虎。と。る。力。の。用。ひ。ざ。れ。ハ。氣。と。る。る。と。い。ひ。及。ん
 榮。枯。の。失。の。死。と。時。す。不。足。ま。り。この。理。と。ま。る。た。死。の。お。ん。身。か。ど。死。煩。悩。ハ
 る。た。人。の。子。の。不。孝。る。る。わ。その。恨。と。放。ん。と。い。つ。の。疑。の。為。よ。これ。と。勸。解。る。

よ。その。子。の。惡。を。助。け。て。こ。ま。を。難。入。り。に。か。ば。う。ま。ま。さ。う。存。養。も。暗
 々。胸。の。煙。の。主。覆。ひ。速。ひ。の。雲。の。深。く。と。の。月。を。隠。せ。ん。夫。用。ハ。起。る
 正。を。飲。び。耳。ハ。聴。正。を。飲。び。鼻。ハ。顛。正。を。飲。び。口。ハ。食。正。を。飲。び。心。ハ。使。正
 る。と。飲。び。足。ハ。走。正。を。飲。び。目。を。り。て。ん。さ。ん。と。と。れ。と。も。色。目。ハ。必。ま。る。
 耳。ハ。聴。正。と。と。れ。と。も。声。ハ。必。ま。る。鼻。ハ。顛。正。と。と。れ。と。も。香。あ。れ。ハ
 る。と。顛。口。ハ。食。正。と。と。れ。と。も。飢。ま。ら。る。と。食。ふ。正。を。使。つ。と。と。れ
 とも。動。け。ば。ら。る。と。使。正。と。走。正。と。と。れ。と。も。ま。か。る。と。ま。る。あ。れ。ど。も
 正。の。ま。され。ば。ん。ま。ま。も。認。え。ど。ま。も。聴。え。ど。食。へ。ど。味。ひ。と。こ。ろ。そ。の
 正。の。喘。と。と。も。ま。ま。ま。の。室。よ。六。骸。の。主。と。て。人。間。の。安。危。を。ま。る。係。の
 正。明。く。且。慎。む。と。あ。る。と。必。ま。る。人。我。情。慾。の。為。ふ。その。血。涙。は。ま。る
 て。一。生。を。悔。つ。正。執。つ。ま。ま。と。悲。ま。ま。と。ん。正。く。理。を。明。く。と。死。ハ。私。に。

老の浪たれし
いさよの
月のぬらも
久きやふいぎ
かこるる



いさよの

山崎本七土備後編巻二

祁黄羊答二千といふ力のを用ひりつ。まづこれとつひは平公亦肩
 うら頼め。午の皇子が児るよぶと。と研りぬるハ祁黄羊答てされば
 子か君臣が子のことと向せぬふかあふふ比尉と有りぬるふ午はほ
 するりのいふたよ。子とて薦めさうさならんや。と回答。平公
 かく飲ひて。おを是と用ひり。晋の圃より治りぬ魯國の先聖にれ
 と。吹て。吾哉黄羊がりのと論じさう。外ハその雙とせらざるとこれと
 吹拳。肉ハその子と遊むくと是と吹拳と。公のうといふべとて。吹
 ぬひ。秦の丞相文信侯ハその。かる人ハ煩悩多。富人ハ富せりて
 人ハ驕まるもありとつとも。道とつよ入ハ。え申すらむ。勢ひの人。勢
 とりて人ハ驕まるもありとつとも。私を人ハ。彼つと。階侯の珠ハ至宝
 あり。階侯の珠とつと。高き階の雀と弾。人ハ。人ハ。笑ハべ。

その笑ハ所以ハ何ぞや。重と宝とて。怪き雀と弾。ハ人の。ウ
 あり。性命より重とる。あるを情慾の為。煩惱絶て身とて用
 小病煩せ。天年とつと。ぬりの珠とて雀と弾。ハ。情慾ハ何
 かのとつと。人生まで慾の情あり。又情慾あり。貪る。と好む。
 貪る。と好む。又煩悩とる。か。か。聖人ハ礼と制。一節
 と備め。慾と止めて。その情を割。り。君又の道ハ仰て高く。臣子の
 道ハ俯て低。君出ま。臣跪き。又坐せば。子ハ。礼儀。百威。侯之
 子ハ情慾と正との準繩とる。されば耳の声を。目。口。の
 味。と。情。と。この。貴。賤。の。智。も。思。る。
 由。これ。と。聖。人。ハ。聖。人。ハ。情。と。失。ひ。と。道。よ。か。る。ひ。
 凡人ハ。情。と。失。ひ。と。道。よ。か。る。と。か。ら。ん。か。女。味。と。

まひを乱^{みだ}す五声^{ごせい}八耳^{はつみみ}を乱^{みだ}す。五味^{ごみ}と五声^{ごせい}の味^{あじ}はと耳^{みみ}と乱^{みだ}るはあべ
 人^{ひと}その情^{なさけ}を失^{うしな}へつる。以^{もつ}てあつる。墨子^{すみし}の素^{もと}を糸^{いと}とえく。漆^しを漆^しとと
 歎^{なげ}く。糸^{いと}の表^{あらわ}さる天性^{てんせい}なり。とんれとも茶^{ちや}を漆^しととれは茶^{ちや}く。黄^{わう}
 漆^しととれは黄^{わう}なり。漆^しを五^ごとびやく。その色^{いろ}竟^{つひ}に五^ごとよ変^{かへ}とる。其^{その}を
 りつて推^{おし}とれは善^{ぜん}と漆^しののの悪^{あく}悪^{あく}と漆^しののの悪^{あく}悪^{あく}は漆^しののの煩^{わづら}
 悩^{なや}みく。智^ち恵^えは漆^しののの迷^{まよ}へん。この本^{もと}は亮^{りやう}四^し岳^{がく}と漆^しの。舜^{しゆん}の伯^{はく}陽^{やう}と漆^しの。
 禹^うの皋^{こう}陶^{たう}伯^{はく}益^{えき}と漆^しの。武^ぶ王^{わう}の太^{たい}公^{こう}望^{わう}周^{しゅう}公^{こう}旦^{たん}と漆^しの。意^い仲^{ちゆう}天^{てん}皇^{わう}と武^ぶ内^{ない}宿^{しゆく}
 称^{せう}と漆^しの。仁^に德^{とく}帝^{てい}の菟^う道^{だう}郎^{らう}子^し王^{わう}仁^に木^{ぼく}と漆^しの。推^{おし}古^この既^{けい}戸^こと漆^しの。天^{てん}智^ちを
 豫^よ足^{そく}と漆^しの。和^わ漢^{かん}の聖^{せい}王^{わう}の漆^しの所^{ところ}をりて天下^{てんか}と治^ちめひらる。
 亦^{また}夏^かの桀^{せつ}王^{わう}羊^{やう}辛^{しん}岐^き踵^{しゆう}戎^{じゆう}と漆^しの。紂^{しゆう}王^{わう}の崇^{しゆう}侯^{こう}惡^{あく}來^{らい}と漆^しの。崇^{しゆう}峻^{けん}帝^{てい}と
 馬^ま子^しと漆^しの。稱^{せう}德^{とく}帝^{てい}の道^{だう}度^{たう}と漆^しの。和^わ漢^{かん}の乱^{らん}王^{わう}庸^{やう}主^{しゆ}への
 漆^しととるをりて遂^{つい}に天下^{てんか}を喪^{しやう}ひぬぬ。與^よと敗^{たい}とと漆^しとと喪^{しやう}ふと。
 とるその漆^しの所^{ところ}より。慎^{しん}まじむ。べうと漆^し。只^{ただ}上^{じやう}智^ちと下^げ愚^ぐとは
 うらむ。生^{せい}まじむ。智^ちの入^いの学^{がく}びとて理^りを通^{つう}じ。理^りを不^ふ通^{つう}せと。
 由^{よし}多^た不^ふ善^{ぜん}と移^{うつ}す。互^{たがひ}にめを思^{おも}ひ入^いの学^{がく}と由^{よし}の母^ぼ理^りを不^ふ通^{つう}せと。
 理^りを不^ふ暗^{あん}まを。又^{また}善^{ぜん}とうらむ。上^{じやう}智^ちの段^{だん}君^{きん}下^げ愚^ぐの煩^{わづら}惱^{なう}と漆^し。
 視^し物^{ぶつ}の持^{もち}ととれは怪^{かい}ととる。人^{ひと}常^{じやう}に大^{たい}厦^{しゃ}高^{かう}樓^{ろう}を居^いるとれは怪^{かい}ととる。其^{その}を
 鬱^{ふさ}しく病^{びやう}を生^{せい}す。古^こ物^{ぶつ}の敗^{さい}屋^{いつ}闇^{あん}室^{しつ}とありとれは怪^{かい}ととる。精^{せい}持^{もち}て妖^{やう}怪^{かい}を
 る。情^{じやう}慾^{よく}の肺^{はい}肝^{かん}胸^{きゆう}膈^{かく}を持^{もち}ととれは怪^{かい}ととる。愚^ぐ癡^ち癡^ちて煩^{わづら}惱^{なう}とる。煩^{わづら}
 悩^{なや}は甚^{しん}惡^{あく}魔^まなり。おを起^{おこ}して中^{ちゆう}怖^{おそ}ふ。只^{ただ}彼^か大^{たい}人^{じん}君^{きん}子^しの妄^{わう}想^{きやう}とて
 ある。其^{その}を妄^{わう}想^{きやう}るは甚^{しん}惡^{あく}魔^まの隙^{きやく}とて煩^{わづら}悩^{なや}とる。凡^{かん}
 人^{じん}の妄^{わう}想^{きやう}る。待^{まち}正^{せい}まじむ。甚^{しん}惡^{あく}魔^まの易^{やく}。聖^{せい}人^{じん}の妄^{わう}想^{きやう}る。

まひを乱^{みだ}す五声^{ごせい}八耳^{はつみみ}を乱^{みだ}す。五味^{ごみ}と五声^{ごせい}の味^{あじ}はと耳^{みみ}と乱^{みだ}るはあべ
 人^{ひと}その情^{なさけ}を失^{うしな}へつる。以^{もつ}てあつる。墨子^{すみし}の素^{もと}を糸^{いと}とえく。漆^しを漆^しとと
 歎^{なげ}く。糸^{いと}の表^{あらわ}さる天性^{てんせい}なり。とんれとも茶^{ちや}を漆^しととれは茶^{ちや}く。黄^{わう}
 漆^しととれは黄^{わう}なり。漆^しを五^ごとびやく。その色^{いろ}竟^{つひ}に五^ごとよ変^{かへ}とる。其^{その}を
 りつて推^{おし}とれは善^{ぜん}と漆^しののの悪^{あく}悪^{あく}と漆^しののの悪^{あく}悪^{あく}は漆^しののの煩^{わづら}
 悩^{なや}みく。智^ち恵^えは漆^しののの迷^{まよ}へん。この本^{もと}は亮^{りやう}四^し岳^{がく}と漆^しの。舜^{しゆん}の伯^{はく}陽^{やう}と漆^しの。
 禹^うの皋^{こう}陶^{たう}伯^{はく}益^{えき}と漆^しの。武^ぶ王^{わう}の太^{たい}公^{こう}望^{わう}周^{しゅう}公^{こう}旦^{たん}と漆^しの。意^い仲^{ちゆう}天^{てん}皇^{わう}と武^ぶ内^{ない}宿^{しゆく}
 称^{せう}と漆^しの。仁^に德^{とく}帝^{てい}の菟^う道^{だう}郎^{らう}子^し王^{わう}仁^に木^{ぼく}と漆^しの。推^{おし}古^この既^{けい}戸^こと漆^しの。天^{てん}智^ちを
 豫^よ足^{そく}と漆^しの。和^わ漢^{かん}の聖^{せい}王^{わう}の漆^しの所^{ところ}をりて天下^{てんか}と治^ちめひらる。
 亦^{また}夏^かの桀^{せつ}王^{わう}羊^{やう}辛^{しん}岐^き踵^{しゆう}戎^{じゆう}と漆^しの。紂^{しゆう}王^{わう}の崇^{しゆう}侯^{こう}惡^{あく}來^{らい}と漆^しの。崇^{しゆう}峻^{けん}帝^{てい}と
 馬^ま子^しと漆^しの。稱^{せう}德^{とく}帝^{てい}の道^{だう}度^{たう}と漆^しの。和^わ漢^{かん}の乱^{らん}王^{わう}庸^{やう}主^{しゆ}への
 漆^しととるをりて遂^{つい}に天下^{てんか}を喪^{しやう}ひぬぬ。與^よと敗^{たい}とと漆^しとと喪^{しやう}ふと。
 とるその漆^しの所^{ところ}より。慎^{しん}まじむ。べうと漆^し。只^{ただ}上^{じやう}智^ちと下^げ愚^ぐとは
 うらむ。生^{せい}まじむ。智^ちの入^いの学^{がく}びとて理^りを通^{つう}じ。理^りを不^ふ通^{つう}せと。
 由^{よし}多^た不^ふ善^{ぜん}と移^{うつ}す。互^{たがひ}にめを思^{おも}ひ入^いの学^{がく}と由^{よし}の母^ぼ理^りを不^ふ通^{つう}せと。
 理^りを不^ふ暗^{あん}まを。又^{また}善^{ぜん}とうらむ。上^{じやう}智^ちの段^{だん}君^{きん}下^げ愚^ぐの煩^{わづら}惱^{なう}と漆^し。
 視^し物^{ぶつ}の持^{もち}ととれは怪^{かい}ととる。人^{ひと}常^{じやう}に大^{たい}厦^{しゃ}高^{かう}樓^{ろう}を居^いるとれは怪^{かい}ととる。其^{その}を
 鬱^{ふさ}しく病^{びやう}を生^{せい}す。古^こ物^{ぶつ}の敗^{さい}屋^{いつ}闇^{あん}室^{しつ}とありとれは怪^{かい}ととる。精^{せい}持^{もち}て妖^{やう}怪^{かい}を
 る。情^{じやう}慾^{よく}の肺^{はい}肝^{かん}胸^{きゆう}膈^{かく}を持^{もち}ととれは怪^{かい}ととる。愚^ぐ癡^ち癡^ちて煩^{わづら}悩^{なう}とる。煩^{わづら}
 悩^{なや}は甚^{しん}惡^{あく}魔^まなり。おを起^{おこ}して中^{ちゆう}怖^{おそ}ふ。只^{ただ}彼^か大^{たい}人^{じん}君^{きん}子^しの妄^{わう}想^{きやう}とて
 ある。其^{その}を妄^{わう}想^{きやう}るは甚^{しん}惡^{あく}魔^まの隙^{きやく}とて煩^{わづら}悩^{なや}とる。凡^{かん}
 人^{じん}の妄^{わう}想^{きやう}る。待^{まち}正^{せい}まじむ。甚^{しん}惡^{あく}魔^まの易^{やく}。聖^{せい}人^{じん}の妄^{わう}想^{きやう}る。

煩惱の雲忽地舞て真如の月道と照され彼客へ到る。と口の酸く
 る。何と説示せ、道樟悩及欠りてこそよくせよ。と流るる。其
 ひ。博物の客は、聖人の世を憂ふと尤甚し。堯の形貌の
 腊のど。腊の乾肉とをひりのど。舜の形貌の腊のど。腊と乾肉
 雜又鶴の燒鳥の類なり。禹の手足は肝胆絶と。面目とて衆物を
 孔子の形貌は累ととて家を喪ふ拘のど。夫聖人の世を憂ひてか
 憔悴多とた凡人の情慾は異なる。凡人の情慾は異なる。聖人
 聖人も又煩惱ありとて。亦博物の客なり。魯の國の賢人は
 公明儀といふ人あり。ある日牛を射ひて奉と彈き。清角の操つと
 く。抵指せども牛はこまを穿ぬ。海と雪花菜を食入て入らざら
 くと牛の穿ぬるあふ。その耳は合されば。かくそ又その調と聴

蚊窟の声。乳統の鳴とて。故や窟の声のど。或は乳統の鳴とて
 操とる。牛の尾と掉躑躅。耳と奮て。と聴り。と是の意
 稱ふ。今客人の説と。調とる。と。耳は合と。公
 明儀が牛はひらて。清角の操とる。如。されば。大声の里耳は
 どの。り。大声のり。の。樂。里耳の。耳。り。大。声。の。樂。の。め。ど
 と。此。由。里。俗。の。為。よ。奏。と。れ。が。勞。と。又。終。と。切。り。智。音。と。遇。と。奉。と
 彈。も。益。り。詩。人。と。遇。と。詩。を。獻。と。る。由。无。連。と。し。孔。子。の。馬。放。と。こ
 稻と食う。農夫より後立てる。馬を捕て。孔子と。子貢と。利。害。を。説。て
 子貢を遣て。この馬をとり。め。り。子貢は。利。害。を。説。て。利。害。を。説。て
 喻。せ。る。と。の。人。と。と。聽。び。て。の。ゆ。え。返。と。免。さ。る。と。ら。ん。と。の。人。と。と。免。さ。る。と。ら。ん
 主ぬりて。この説と。孔子亦馬飼と。つ。つ。と。の。馬。と。求。は

子のみハ馬飼只一言をオクテ忽地農夫又兼知させ馬を牽きて
 来りしと云。童子貢が説と云。拙くも馬飼が説と云。其のゆゑハ
 ぬぐひ只その意のふと合するのこゝろハこそ小児ハ童子を友と。老
 翁ハ老婆と友と。智者ハ賢人と友と。愚人の不肖者と友と。酒客
 ハ醉翁と友と。下戸ハ茶家と友と。俗客ハ蒙昧と友と。不善者
 ハ悪人と友と。同氣相求め同病ハ相憐む又怪む足る人おのく
 好む所あれば又おのく好む所ありて接て目前の理論を博
 士づりて醫家を威せしハこそおん身よなげを使者と云。酒客を
 飲せ向又と棄ひて閑静を推演するハおん身よなげと云。これおん
 身よの口より短く。おん智のおん身よ長く。さハあはれおん身が辨
 論を好む。意の治のむと所あり。おん智を以て改めざる由。この様
 のこと所あり。おん身が故セ馬ハ口をこれと求めがじ。口を狂はると
 猿ハおん身とを憐めばざる。童子貢と馬飼の如し。がれおん身何ぞ
 説かれ又何ぞ其心と云。つまる所ハ同費と云。ゆゑのゆゑ。これ
 この様と云。と云ひて弓を腰に押伸。是よりゆせと生るまは。ハ
 養女兵衛のゆかりつもの。と云ふ。おん身よなげと云。口を狂はると。忙
 たり。

○總評

つまの人の人たるもの。人生まて善むとむりの女。悪む進
 りの女。これ物よ。物よ。地よ。一盞の水と覆ふ。似たり。その
 のまると左よ。それ右よ。それ。おん身よの形と云。と云。圓なる
 ハ稀なるか。如し。思退て。と云。と云。この論は。おん身よ。

五十四の天龍夜叉の巻二

ある秋夫水のゆく高きは必らずして左右へ流れ低ればかゝるに
 ちりちりの上へ出さるりのも人情のさうばをたよめへ登るとその
 低きを隔まらばとさうり鳥獲ハ身カの人あり。奪牛の尾をひき
 さむる牛の勢ひるを止むべしその尾をひきさうりて已ぬべし情慾の
 禁じがた奪まらる牛と鳥獲の如し。相挑むと其りて天原の性
 情種々の禍と意正。牛の尾を断り是るるも奪牛ハ情慾之止。
 鳥獲ハ法度。かろなる聖人ハ情と失とを慾を禁めよう。礼節を
 のみ。且水のさうりよす。低きを就ハ水の性なり。聖人その情を失ひ
 めるるも奪まらる。人生まて善又進ハ女。悪又進ハ女の。善と進
 入。童子ホカサの管りて吹く。シヤボとといふりの。近。故。ゆ
 とる。と。い。の。泡。の。管。り。如。假。は。味。と。ある。と。正。は。ま。圓。し。れ。人

ふ得まれば本然の善之既よその管とする。風又隨て飛揚するを
 是ま。さ。ゆ。の。形。と。ある。ま。ま。ま。始。終。真。又。圓。又。稀。あり。善。又
 進。む。りの。稀。ある。も。又。か。の。正。なる。情。慾。の。風。又。誘。引。ま。て。天。原。乃
 性。と。失。ふ。よ。め。び。や。その。圓。ま。も。方。る。も。ゆ。か。め。も。直。ま。も。ゆ。め。ゆ
 あ。し。れ。も。ま。が。り。が。程。あり。風。の。ま。ま。消。さ。る。は。り。り。シヤボと
 ん。人。の。ま。慈。航。の。鏡。と。解。ま。る。煩。惱。の。泥。海。を。漕。ぐ。る。ま。彼
 者。へ。到。ら。ん。る。実。は。疑。ひ。る。と。い。ふ。ん。欵。

